

チームで子どもを育てる学校へ

チーム担任制 導入のご案内

一人ひとりの安心・安全・学びの質を高めるための、新しい学校のカタチ



一人の力量に依存する体制から、組織全体で子どもを守り育てる体制へ



Before



After

私たちの目的は「制度を変えること」ではありません。
「誰一人取り残さない」ことを仕組みとして保障し、
子ども一人ひとりの安心と学びの質を高めるための体制改革です。

子どもの成長段階に合わせた「学年別のきめ細やかなサポート体制」

特別支援学級

【グループ担任制】

複数担任による指導。必要に応じて障がい種を越えた学びや交流の機会を創出。

4～6年生

【チーム担任制 + 教科担当制】

複数の教員で育てる体制。生活面は多面的に見守り、学習面は質の平準化を図る。

3年生

【固定担任制 + 教科担当制】

専門性を生かした授業を一部で導入し、学びの質を向上。

1・2年生

【固定担任制】

「安心して学校生活に慣れること」を最優先。一人の担任を中心にした体制を維持。

教科の専門性を生かし、授業の質を高め、学力差をなくす

3年生以上で導入する「教科担当制」のメリット



教科ごとの専門教員



教材研究の深化



クラス間の学力差を平準化



教材研究の深化

同じ教科を複数回担当することで、より分かりやすい授業へ常に改善を重ねます。



クラス間の平準化

教科ごとの専門性を生かし、学級間の学力差をできるだけ生まない体制を整えます。



英語教育の強化

特に英語については、専門教員が3～6年生を責任を持って担当します。

「この先生しかいない」から、「自分を分かろうとする大人が何人もいる」環境へ

多面的な見守りと初期対応の徹底

一人の担任に依存し、任せきりにすることはありません。



複数の耳と目

子どもの声を複数で聴き、小さな気づきを必ずチームで共有します。

最優先の初期対応

複数の大人が責任をもって支えるため、問題の早期発見と迅速な対応が可能になります。

特別支援学級との連携

通常学級と特別支援学級の教員が必ずつながり、生活・学習・人権課題の情報を共有し、相互に関わり合います。

責任の所在を明確にし、「誰の判断が分からない」状態をつくらない
学年主任が責任ある対応の「柱」となります



- 明確な役割分担

高学年（4～6年生）の通知表や指導要録などは、あらかじめ担当を決めて遂行状況を確認します。

- 日々の確実な管理

出席管理はその週の担当教員が、集金や提出物は共通記録で管理し、抜け漏れを防ぎます。

※4～6年生の学年主任が担任ローテーションに加わるかは、各学年の実態に応じて柔軟に決定します。

チームの要となる「情報共有」の時間を、 国の研究指定制度を活用して生み出す

令和8年度～10年度：「教育課程サキドリ」の実施
チーム担任制を成功させるには、先生同士が話し合う時間が不可欠です。

文部科学省
研究指定

週の標準授業時数
29時間

10%の
見直し・最適化



週1時間

子どもたちの様子を学年で
必ず共有するための会議時間

本校は文部科学省の指定を受け、各教科の指導内容を見直します。標準授業時数より10%ほど少ない時数で習熟を図る計画を立て、そこで生み出された時間を情報共有に充てます。

学校へのご連絡・ご相談が、よりスムーズで確実なものに これからの連絡対応フロー



欠席・各種相談

今後は「担任が窓口」ではなく、学年の誰でも一次的に連絡を受け付けます。

組織的な対応

伝えられた情報は個人で止まることなく、管理職・学年部で共有しチームで対応します。

デリケートなご相談

相談対象が明確な場合は確実にお繋ぎし、学年部に伝えにくい事案は主幹教諭・教頭が丁寧に対応いたします。

デジタルを活用し、確実な引き継ぎと保護者の皆様の負担軽減を実現する

「知っている人がいる」から「必ず記録として残っている」へ



確実な情報管理

ICTを活用し、学年で共有できる記録を作成。
次年度へ子どもの大切な情報を確実に引き継ぎます。



提出物の見直し

Microsoft Teamsを活用して情報共有を一元化。
紙や現金中心の提出方法を見直し、保護者の皆様の
負担軽減を視野に入れた運用改善を進めます。

令和8年4月の本格実施に向け、共に学校づくりを進めてまいります



皆様のご意見も受け止めながら、改善を重ねて準備を進めていきます。

「誰か一人の力量に依存する学校」から、「組織として子どもを守り育てる学校」へ。

保護者の皆様と方向を共有しながら、子どもたちにとってよりよい環境を
共につくりあげていきたいと考えております。